

1990年代の日本海沿岸地方港湾における輸出入貨物の動向

林 上

(名古屋大学)

はじめに

1990年代の日本経済は、91年2月と97年3月をピークとする2つの景気の山を経て推移した。途中の93年10月に景気の底があり、それまでがいわゆるバブル経済の崩壊期に相当する。国内経済がこのように変動する一方で、国際的にはベルリンの壁崩壊に端を発する東西冷戦体制の終焉があり、1991年12月にはソビエト連邦の体制崩壊が起こった。対照的に隣国の韓国では経済成長がつづき、さらに社会主義体制下で市場経済システムの導入を果たした中国が経済発展の階段を上り始めた。こうした内外の情勢変化のもとでわが国の貿易構造も微妙に変化していったが、とりわけソ連崩壊後の新生ロシアや韓国、中国に地理的に近い日本海側の諸地域がこの間にいかなる経済動向を示したかは、大いに関心の持たれるところである。

海外の資源・エネルギーに大きく依存し、加工貿易に励んできたわが国経済の特質は日本海側地域でも基本的に同じである。臨海部に平野が広がり、都市や工業地域が展開する地理的特徴もまた、基本的には太平洋側のそれと変わるところがない。このような特性を有する日本海側の経済地域で交易拠点の機能を果たしているのが、沿岸部に立地する港湾である。太平洋側とりわけ3大都市圏に位置する大規模港湾に比べるとスケールこそ小さいが、地域経済を支える重要な役割を担っている。本研究では、こうした役割を担ってきた日本海沿岸の地方港湾が、1990年代にどのような貿易構造を示したかを明らかにする点にある。対象としたのは北海道の石狩湾新港をはじめとする全部で12の港湾である。いずれも各地方を代表する港湾であり、そこで取り扱われた輸出入貨物の動向を捉えることにより、地域経済の状況変化の一端を知ることができる。

I 港湾の概況と輸出入貨物の全体的動向

1. 対象港湾の概況

最初に、対象とした 12 の港湾の概況について述べておくことにしよう。

石狩湾新港 もっとも北に位置する石狩湾新港は、日本海に臨む石狩湾沿岸のほぼ中央に位置しており、小樽市と石狩湾市の両方にまたがっている。北海道の政治・経済・文化の拠点をなす札幌市の中心部からは 15km の位置にある。国道 231 号や国道 337 号（道央新道）などと結節しており、1982 年の東埠頭木材港区の完成を皮切りに、港湾整備が進められてきた。背後の工業用地に 700 社余が進出し、うち 500 社が操業している。

秋田港 日本海に注ぐ一級河川の旧雄物川の河口に位置しており、背後には県都・秋田市がある。秋田港と呼ばれるようになったのは 1941 年以降のことであり、1965 年に秋田湾地区が新産業都市に指定されたことを契機に港湾の建設が進んだ。大浜堀込み港湾工事が完了し開港したのは 1970 年である。背後地の向浜地区、大浜地区には亜鉛精錬、火力発電所、製紙工場、木材関連工場などが進出している。

酒田港 最上川の河口に位置しており、江戸時代には西回り航路の開設により上方方面との交流が盛んに行われた。第 2 次大戦後は山形県の中核港として位置づけられ、1951 年には重要港湾の指定を受けた。本港地区、外港地区、北港地区の 3 つから成り立っており、本港地区には 3 つのバースがある。1974 年に開港した堀込式の北港地区には 5 万トン級バース、1.5 万トン級バースが設けられている。1992 年に中国黒竜江省との間で「東方海上シルクロード」を開設し、1995 年には釜山港との間にコンテナ定期航路を開いた。

新潟港 1967 年に日本海側で最初に特定重要港湾に指定された港であり、歴史の古い西港区と 1969 年に新しく建設された堀割式の東港区ならなる。西港区からは佐渡、小樽との間にフェリーが就航するほか、関越自動車道、北陸自動車道の開通によって取扱貨物量が急増している。1959 年の北朝鮮航路の開設以降、1980 年にポストチヌイとの間にコンテナ定期航路が開設された。1993 年にはウラジオストクとの間にも航路が開かれた。韓国、台湾、中国、シンガ

ボールなど東アジア地域との交流も盛んである。東港区の工業港区（909ha）では鉄鋼、石油、電力、機械など130を上回る企業が操業している。

直江津港 新潟県南西部の頸城平野を流れる関川と保倉川が合流して日本海に注ぐ河口に位置している。直江津は信越本線と北陸本線の分岐点であり、国道8号と国道18号によって新潟、富山、高崎方面とも結ばれている。海陸交通の要衝としての歴史は古く、1951年には重要港湾の指定を受けた。中央埠頭の5万トン級バース1をはじめ、1.5万トン級バース6など多数の埠頭を擁する。1995年6月に中国の丹東港との間でコンテナ港路が就航し、同じく10月には釜山港との間に定期コンテナ航路が開かれた。関越自動車道上越線の開通による長野県、首都圏方面との結びつきの強化が見込まれる。

伏木富山港 1986年に日本海側で2番目に特定重要港湾に指定された港であり、伏木港、富山港、富山新港（新湊）の3港からなる。伏木港は小矢部川の河口に位置しており、1899年に開港場に指定された。背後に紙・パルプ、化学などの臨海工業地帯や石油配分基地が控えている。富山港は神通川の河口港であり、古来より東岩瀬港として発展してきた。1951年の重要港湾指定以降、港湾施設の整備と工場立地が進められた。放生津潟を利用した堀込港湾として開港した富山新港の背後には430haの工業用地があり、93社が臨海工業地帯を形成している。

金沢港 日本海に注ぐ大野川と犀川を包含する港湾地域にあり、1954年に大野港と金石港が合併して金沢港となった。1964年に重要港湾の指定を受けたのち、大野川右岸に掘込式の港湾が整備された。1988年には韓国との間に定期コンテナ航路が開設され、1995年からは台湾との間でもコンテナ航路による取引が始まった。公共埠頭には1.5万トン級バース2をはじめ7つの岸壁があり、1995年にはタイヤマウント式クレーンが設置された。ポートサイドふれあい整備事業など、親水空間の創出にも力が注がれている。

敦賀港 敦賀湾の最奥部に位置する天然の良港であり、古くから日本海の玄関口として発展してきた。明治から昭和前期にかけて修築工事が進められ、中京、阪神の工業地域と大陸を結ぶ交通の要衝として機能した。第2次大戦後は日ソ

貿易の再開とともに活気を取り戻すようになり、港勢は上昇していった。船舶の大型化にともなってバースの増設が行われる一方、輸入木材の受け入れ施設として貯木場が設けられた。1980年に北陸自動車道が名神高速道路と結ばれたため、近畿圏、中京圏との連絡がますます密になった。1990年には釜山港との間にコンテナ航路が開設された。

舞鶴港 若狭湾の西寄りに位置する舞鶴湾にあり、古くから天然の良港として栄えてきた。東港は軍港、西港は商港・漁港として発展してきた歴史があり、1951年には重要港湾に指定された。1989年の多目的クレーン完成、1995年の前島埠頭施設の完成を受けて、ロシア、韓国、台湾との間に定期航路があいついで開設された。臨海部には造船、ガラス、繊維、食品などの工業が立地しており、輸入の主体はこれらの工業原料と原木である。環日本海交流の拠点づくりと近畿圏の活性化を目指し、1995年には舞鶴市が輸入促進地域（FAZ）の指定を受けている。

境港 自然条件に恵まれた山陰地方随一の良港であり、対大陸貿易の拠点として格好の位置を占めている。1951年に重要港湾の指定を受け、鳥取、島根両県協定による境港管理組合が開発・整備を進めてきた。1966年には境港の後背地域が中海地区新産都市に指定されたため、工業発展を促進する機能も担うようになった。1989年の東アジア航路、1995年の中国航路、釜山航路の開設など、港勢は上昇傾向にある。境港FAZ計画も国から承認されたため、山陰地方の拠点港としてさらに発展が期待される。

伊万里港 伊万里湾の湾奥部に位置する佐賀県内唯一の工業港であり、直近の背後には伊万里市がある。古くから大陸往来の要衝あるいは玄海漁業の基地として発展してきた。江戸時代は肥前陶磁器の移出港、近代以降は石炭の積出港として栄えたが、燃料革命後は衰退の道を歩んだ。1960年代後半から木材港としての建設が進められ、合板企業も立地した。その後は造船、鉄鋼、セメント工業も立地し、多角化が進んだ。工業港としての拠点づくりが行われる一方で、海洋リクレーション基地の建設も進められている。

長崎港 リアス式の深い入江地形に恵まれた良港であり、鎖国時代は国内唯一

の門戸としての役割を果たしてきた。維新後は往時の独占的繁栄はなくなったが、1907年には最重要港7港のひとつとして認定されている。第2次大戦前は中国大陸やオーストラリア、フィリピン方面との結びつきが強かった。戦後の経済発展とともに港勢は強まり、第1次外港整備で外貿埠頭、工業用地が建設された。1972年からの第2次外港整備で貨物埠頭と木材埠頭が整備された。工業港にとどまらず、商港、国際観光港としての性格もそなえている。

2. 12港湾における輸出貨物量の全体的動向

1989年から1998年までの10年間は、日本経済がバブルの崩壊から不況に突入し、その後、回復軌道に入ったものの、再び景気後退へと進んでいった時期である。すなわち、1986年11月を起点として4年余り続いた好景気は1991年2月をピークとして大きな谷へと落ち込んでいった。いわゆるバブル経済の崩壊である。それから2年余りのちの1993年10月を底として一時的に不況は脱し、経済は徐々に勢いを取り戻した。しかしその足取りは弱く、消費税率の引き上げをきっかけとして1997年3月には再び勢いを失った。2つの山を描く日本経済のこうした動きは、12港湾からの輸出貨物量の推移にもおおむね反映されている(表1)。まず、前半のバブル経済のピークとその崩壊の時期については、1989年から1990年にかけての増加が大きく、全体の増加率は20.2%であった。個別に見ると、長崎(112.8%)、新潟(59.4%)でとくに伸びが大きく、7つの港湾で貨物量は増加した。1990年から1991年にかけても増加は続いたが、伸びは3.3%にとどまった。バブル経済がピークを迎えた1991年から1993年までは、輸出貨物量も減少の方向をたどる。とくに1991~92年の落ち込みが大きく、-6.8%の減少であった。景気が底を打った1993年からは輸出貨物量も増加に転じ、1997年までは増加傾向が見られた。ただし、例外的に1994~95年は-2.7%の減少であり、翌年はその反動で41.1%と大きく増加した。日本経済は1997年をピークとしてその後は後退局面に入っていくが、輸出貨物量はさらに増え、1997~98年は22.7%の増加であった。

以上のように、12港湾全体の輸出貨物量は日本経済の趨勢を反映するかた

ち

表1 各港湾からの輸出貨物量の推移（実数=トン）

港湾	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
石狩湾新	4,233	12,392	6,466	10,570	1,570	555	1,519	8,005	11,631	44,263
秋 田	16,093	11,275	12,408	17,656	13,036	33,125	32,856	144,194	153,933	167,640
酒 田	32,212	12,586	14,063	51,460	38,562	21,074	43,296	66,558	76,783	78,751
新 潟	169,545	270,187	278,698	155,440	172,907	187,350	218,802	257,019	311,119	463,946
直 江 津	6,701	3,540	2,800	1,239	1,998	3,300	4,525	12,733	32,086	59,009
伏木富山	199,410	183,353	156,753	130,093	153,547	131,915	142,190	165,815	178,579	171,042
金 沢	22,217	37,997	48,537	37,073	50,453	29,449	69,018	93,908	104,459	75,393
敦 賀	85,416	52,133	104,313	138,565	209,926	178,687	144,692	147,522	116,686	49,252
舞 鶴	21,019	32,793	41,737	26,713	37,653	27,837	30,122	6,103	7,290	20,833
境	54,181	56,216	40,997	48,015	50,102	57,021	40,229	33,649	31,160	32,851
伊 万 里	0	1,630	3,360	0	1,840	4,986	2,912	1,400	10,125	32,776
長 崎	65,250	138,855	129,871	166,049	39,335	125,303	48,836	162,547	156,112	264,051
合計	676,277	812,957	840,003	782,873	770,929	800,602	778,997	1,099,453	1,189,963	1,459,807
増加率（%）		20.2	3.3	-6.8	-1.5	3.8	-2.7	41.1	8.2	22.7

で推移した。しかし、これはあくまで全体の動きであり、港湾別に見れば動きは一樣ではない。そこでつぎに、12 港湾全体の輸出貨物量を 100.0 として各港湾の比率を求めて、その変化を検討することにしよう。上位を占めたのは新潟であり、1989、92、93 年を除いてトップであった（表 2）。もっとも大きかったのは 1990 年と 1991 年であり、いずれも 33.2% である。10 年間の累計もしくは平均は 27.0% である。比率が 2 番目に大きいのは伏木富山であり、累計では 17.5% である。伏木富山は 1989 年は 29.5%、1990 年も 22.6% という大きな比率を示したが、それ以後はほぼ連続して比率を低下させ、1998 年には 11.7% まで低下した。結局、10 年間で半減してしまった。10 年間の累計で比率が 3 番目に大きいのは長崎（14.1%）であり、同じく第 4 位は敦賀（13.3%）である。長崎は 1992 年に 21.2% を示したが、その翌年は 5.1% にとどまるなど変化が大きい。しかし、もっとも最近の 1998 年の比率は 18.1% であり、これは新潟について第 2 位である。一方、敦賀は 1993 年から 1994 年にかけて 20% 以上の比率を示したが、最新年の 1998 年はわずかに 3.4% である。

このように、輸出貨物量の港湾別順位にはかなりの入れ替えがあった。これは

表2 各港湾からの輸出貨物量の推移（構成比=%）

港湾	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1989～98年
石狩湾新	0.6	1.5	0.8	1.4	0.2	0.1	0.2	0.7	1.0	3.0	1.1
秋田	2.4	1.4	1.5	2.3	1.7	4.1	4.2	13.1	12.9	11.5	6.5
酒田	4.8	1.5	1.7	6.6	5.0	2.6	5.6	6.1	6.5	5.4	4.7
新潟	25.1	33.2	33.2	19.9	22.4	23.4	28.1	23.4	26.1	31.8	27.0
直江津	1.0	0.4	0.3	0.2	0.3	0.4	0.6	1.2	2.7	4.0	1.4
伏木富山	29.5	22.6	18.7	16.6	19.9	16.5	18.3	15.1	15.0	11.7	17.5
金沢	3.3	4.7	5.8	4.7	6.5	3.7	8.9	8.5	8.8	5.2	6.2
敦賀	12.6	6.4	12.4	17.7	27.2	22.3	18.6	13.4	9.8	3.4	13.3
舞鶴	3.1	4.0	5.0	3.4	4.9	3.5	3.9	0.6	0.6	1.4	2.7
境	8.0	6.9	4.9	6.1	6.5	7.1	5.2	3.1	2.6	2.3	4.8
伊万里	0.0	0.2	0.4	0.0	0.2	0.6	0.4	0.1	0.9	2.2	0.6
長崎	9.6	17.1	15.5	21.2	5.1	15.7	6.3	14.8	13.1	18.1	14.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

のちに述べる輸入貨物量とは対照的な動きであり、過去10年間に港湾間で「輸出競争」が行われたことを示唆している。構成比率の上昇が大きかった港湾とその年次を列記すると以下ようになる。秋田は1995～96年の上昇が8.9ポイントと大きく、10年間を通してみても輸出貨物量の増加が大きい。新潟は1989～90年に8.2ポイントも上昇し、1997～98年にも5.6ポイント増えた。金沢は1994～95年に5.2ポイントの上昇を見、その後数年この比率を維持した。敦賀は1990年以降、3年間は5.3ポイント以上の上昇であったが、先述のように、その後は比率を大幅に低下させていった。最後に長崎は、1989～90年をはじめ4度にわたって5.7ポイント以上上昇させたが、逆に比率を大きく下げた年もあった。10

年間の趨勢を通覧していえば、新潟、長崎、秋田の諸港で輸出増加が著しかったのに対し、伏木富山、敦賀の港湾におけるそれは相対的に低調であった。

3. 12 港湾における輸入貨物量の全体的動向

輸出と同じように、まず 12 港湾全体への輸入貨物量の年次推移を検討する。輸入は輸出とは少し違い、日本経済の景気変動を直接反映する動きにはなっていない。しかし、約 1 年のタイムラグをともないながら、1992 年まではわずかなマイナスかもしくは 4.1% を上回る増加率を示した（表 3）。バブル崩壊に呼

表 3 各港湾への輸入貨物量の推移（実数=トン）

港湾	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
石狩湾新	29,942	70,424	102,634	92,172	128,121	126,869	136,421	138,967	125,384	116,197
秋田	2,431,852	2,439,770	2,554,505	2,452,169	2,117,157	2,444,665	2,586,097	2,468,169	2,207,566	1,793,925
酒田	1,586,137	1,701,124	1,469,159	2,354,443	2,172,484	2,117,805	1,969,628	2,121,926	2,009,053	1,887,118
新潟	10,461,714	10,123,062	10,907,769	11,127,771	11,534,713	12,063,464	11,940,065	12,791,305	13,076,759	13,340,594
直江津	1,004,784	960,054	960,705	897,447	901,315	820,091	741,220	883,240	838,137	647,383
伏木富山	7,055,183	7,263,991	7,140,731	6,993,858	6,256,208	6,610,072	6,474,266	6,957,861	7,440,300	6,355,156
金沢	359,606	271,306	300,740	213,914	234,384	208,700	228,362	302,055	332,593	329,956
敦賀	969,449	1,019,318	1,439,205	2,159,353	2,123,968	2,353,621	2,086,932	1,897,463	2,130,186	1,666,750
舞鶴	883,651	824,484	799,489	859,668	1,388,161	810,864	908,903	799,149	874,003	603,187
境	1,154,138	1,099,287	1,083,868	1,096,057	1,065,971	1,118,399	1,170,990	1,286,614	1,299,945	1,244,931
伊万里	533,928	536,895	574,964	520,187	492,690	452,885	510,317	469,715	562,907	480,095
長崎	213,997	221,282	280,112	257,145	216,256	252,236	292,251	422,951	413,347	321,869
合計	26,684,381	26,530,997	27,613,881	29,024,184	28,631,428	29,379,671	29,045,452	30,539,415	31,310,180	28,787,161
増加率(%)		-0.6	4.1	5.1	-1.4	2.6	-1.1	5.1	2.5	-8.1

応するかのように 1992～93 年は輸入貨物量は減少したが、減少率は-1.4%にとどまった。1993 年から始まる景気回復期には、おおむね輸入貨物量も増加した。そして、1997 年 3 月を起点に再び後退に転じた経済の動きを反映するように、1997 年から 1998 年にかけては-8.1%という大きな減少を記録した。このように、輸出と比べるとやや不規則ではあるが、全体から見ると輸入貨物量もまた日本経済の動向に沿った動きをしたといえる。

輸出と比較した場合、過去 10 年間の港湾別構成比率は非常に単純に推移したといえる。比率がもっとも大きかったのは新潟であり、10 年間変わること

がなかった（表4）。もっとも大きかったのは1998年の46.3%であり、10年間の累計でも40.8%であった。第2位は伏木富山であり、これもまた10年間変わらなかった。最大は1990年の27.4%であり、その後は徐々に低下して1998

表4 各港湾への輸入貨物量の推移（構成比=%）

港湾	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1989～98年
石狩湾新	0.1	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4
秋田	9.1	9.2	9.3	8.4	7.4	8.3	8.9	8.1	7.1	6.2	8.2
酒田	5.9	6.4	5.3	8.1	7.6	7.2	6.8	6.9	6.4	6.6	6.7
新潟	39.2	38.2	39.5	38.3	40.3	41.1	41.1	41.9	41.8	46.3	40.8
直江津	3.8	3.6	3.5	3.1	3.1	2.8	2.6	2.9	2.7	2.2	3.0
伏木富山	26.4	27.4	25.9	24.1	21.9	22.5	22.3	22.8	23.8	22.1	23.8
金沢	1.3	1.0	1.1	0.7	0.8	0.7	0.8	1.0	1.1	1.1	1.0
敦賀	3.6	3.8	5.2	7.4	7.4	8.0	7.2	6.2	6.8	5.8	6.2
舞鶴	3.3	3.1	2.9	3.0	4.8	2.8	3.1	2.6	2.8	2.1	3.0
境	4.3	4.1	3.9	3.8	3.7	3.8	4.0	4.2	4.2	4.3	4.0
伊万里	2.0	2.0	2.1	1.8	1.7	1.5	1.8	1.5	1.8	1.7	1.8
長崎	0.8	0.8	1.0	0.9	0.8	0.9	1.0	1.4	1.3	1.1	1.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

年の22.1%まで低下した。10年間の累計は23.8%である。比率が3番目に大きかったのは秋田であり、累計では8.2%である。ただし、1998年は酒田について第4位、1993年は敦賀について第5位であった。第4位は酒田であり、10年間のうち5回までがこの順位である。長期的に見て、秋田が比率を徐々に低下させたのに対し、酒田はわずかではあるが比率を高めた。最近年である1998年の両者の順位は入れ替わっている。5位以下の順位についても、若干の異動はあるが、大きく変化することなく推移した。

このように、輸入貨物量の港湾間の順序に大きな変化は見られなかった。特記すべき大きなポイント変化もほとんどなく、わずかに新潟が1997～98年で

4.6 ポイントを記録したくらいである。これにつぐのは、酒田の 1991～92 年における 2.8 ポイントの増加である。結局、1989 年からの 10 年間で比率を高めたのは新潟（7.1 ポイント）、敦賀（2.2 ポイント）であり、その逆に低めたのは伏木富山（-4.4 ポイント）、秋田（-2.9 ポイント）である。新潟の比率が高まり、伏木富山の比率が低下したという特徴は輸出の場合とまったく同じである。これとは対照的に、秋田は輸出では比率を高めたが、輸入では逆に低下した。また敦賀は、輸出で比率を低下させたが、輸入では比率が高まった。

II 品目別に見た輸出入貨物の経年的変化

1. 輸出貨物の品目別構成比率の経年的変化

日本海沿岸の 12 の港湾から海外へはどのような貨物が輸出されたのであろうか。輸出貨物量全体を 100.00 とした場合、構成比率がもっとも大きいのはその他機械である（表 5）。この品目は 1993 年を除いて、あとはすべての年次でもっとも比率が大きかった。10 年間の累計では 22.02% である。とくに比率が大きかったのは 1990～92 年であり、26% を上回った。1993 年はセメントが 18.69% で最大であり、機械の 14.51% が 2 番目に大きかった。10 年間の累計で構成比率が 2 番目に大きかったのは化学薬品（12.28%）である。化学薬品は 1991～93 年は 8% を下回ったが、その後は上昇傾向にあり、1998 年は 14.95% を示した。第 3 位の金属くずは累計で 8.43% の比率であり、とくに近年は増加の傾向にある。これとは対照的に、染料・塗料・合成樹脂・その他工業化学薬品は累計でこそ 8.15% であるが、1993 年以降は低下の傾向にあり、1998 年は 4.90% を占めるにとどまった。

輸出貨物量構成比率の第 5 位はセメントである。セメントは 1993 年に 18.69% をも占めたが、その後は急激に低下し 1998 年はわずかに 57 トンが輸出されたにすぎない。輸送機械の構成比率は累計で 6.83% であり、多少の変動はあるものの、ほぼコンスタントに比率を維持してきた。紙・パルプ（累計で 5.54%）は 1997 年に 7.81% を示したが、その後はやや低下の傾向にある。取合せ品も 1997 年には 9.08% を記録したが、その後はやや低下し 1998 年は

4.02%であった。以上が構成比率（平均値）が5.0以上の品目である。これらにつづくものとして、化学肥料（2.84%）、ゴム製品（2.22%）、ガラス類（2.09%）、鉄鋼（2.05%）などがある。

表5 輸出品目の構成比率（%）の推移

品目	年次	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1989～98年
糸及び紡績半製品		0.05	0.24	0.56	0.54	1.18	0.63	0.92	0.78	0.47	0.96	0.66
ガラス類		0.05	0.02	0.37	0.31	2.82	4.87	6.16	2.21	2.25	1.86	2.09
くずもの		0.17	0.12	0.16	0.14	0.29	1.02	0.54	0.91	0.32	1.66	0.62
ゴム製品		1.50	1.52	2.14	4.55	2.42	1.92	2.76	2.40	2.29	1.29	2.22
セメント		7.67	3.17	7.68	11.67	18.69	17.17	9.13	7.63	4.98	0.00	7.91
その他機械物		16.27	28.27	29.05	26.42	12.25	19.06	15.01	23.93	21.57	24.28	22.02
その他金属製品		0.84	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.04	0.02	0.07
その他食料工業品		0.24	0.16	0.27	0.34	0.52	0.31	0.24	0.07	0.19	0.14	0.23
その他製造工業品		1.20	0.43	0.24	0.11	0.16	0.23	0.64	0.30	0.34	0.83	0.46
その他繊維工業品		1.56	2.85	0.96	0.47	0.38	0.77	2.91	2.38	1.82	1.09	1.53
その他畜産品		0.00	0.00	0.03	0.81	0.00	0.05	0.02	0.00	0.40	0.03	0.13
その他農産品		0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.06
その他非金属鉱物材		2.37	3.39	1.35	1.21	1.42	2.10	2.88	2.03	1.89	1.36	1.95
その他木業		0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
その他窯業		1.97	1.42	0.58	1.25	0.53	0.87	0.35	0.10	0.27	0.26	0.67
化学肥料		4.40	5.13	5.39	1.10	1.86	0.58	2.39	2.64	2.67	2.61	2.84
化学薬品		11.20	10.68	7.26	7.26	7.99	10.67	11.28	18.17	16.62	14.95	12.28
玩具		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
金属くず		6.84	2.62	3.13	11.33	8.42	8.07	9.87	8.76	10.03	11.73	8.43
金属製塩		0.69	0.59	0.29	0.73	0.18	0.64	1.16	1.07	1.11	0.64	0.73
原油		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
原木		0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.88	0.01	0.05	0.25	0.01	0.12
原油		0.00	0.00	0.00	0.25	0.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04
砂糖		0.00	0.00	0.05	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
砂利・砂・石材等		0.16	0.59	1.47	2.24	2.32	1.15	0.92	1.00	1.37	1.34	1.27
紙・バルブ		5.30	3.91	4.21	4.86	4.08	5.30	7.81	6.44	7.02	5.50	5.54
紙・バルブ		2.25	3.40	3.76	3.80	3.71	3.93	9.08	7.07	7.68	4.02	5.02
樹脂		0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.09	0.69	0.13
重油		0.06	0.00	3.51	0.12	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.32	0.39
新産炭		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
水産炭		3.62	2.77	1.34	1.14	2.48	2.54	0.27	0.49	0.32	0.20	1.31
石油製炭		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
石油製炭		0.52	0.24	1.57	0.44	0.68	0.47	0.33	0.87	0.21	2.31	0.86
染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品		26.13	19.84	12.26	6.14	9.02	2.51	3.61	2.74	3.58	4.90	8.15
鉄鉱石		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01
鉄鋼		0.97	0.17	0.51	0.85	1.35	0.88	0.95	1.10	1.96	7.47	2.05
陶磁器		0.00	0.00	0.01	0.01	0.09	0.04	0.01	0.00	0.04	0.05	0.03
動物性製造飼料		1.85	1.05	0.32	0.62	0.57	0.12	0.03	0.03	0.03	0.01	0.38
日用製品		0.65	1.59	0.91	0.85	0.82	1.03	0.94	0.58	0.40	0.43	0.77
廃棄物		0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小麦		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
非鉄金属		0.24	0.14	0.33	0.41	0.42	0.49	0.07	0.15	0.39	0.76	0.37
分類不能のもの		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.11	0.08	0.03
米・雑穀・豆		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.51	0.42	0.00	2.62	0.85
木製製品		0.05	0.00	0.12	0.09	0.12	0.04	0.08	0.04	0.03	0.03	0.06
野菜・果物		0.00	0.01	0.03	0.03	0.01	2.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.22
輸送機械		1.11	4.56	6.87	8.21	14.51	8.73	4.86	5.36	9.05	5.26	6.83
輸送用容器		0.02	1.13	3.23	0.92	0.46	0.31	0.23	0.15	0.20	0.26	0.64
合計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

過去 10 年間で単純に比較して、構成比率が大きく増加した品目を列挙すると、その他機械（8.01 ポイント）、鉄鋼（6.50 ポイント）、金属くず（4.89 ポイント）、輸送機械（4.14 ポイント）、化学薬品（3.75 ポイント）となる。逆に構成比率の低下が大きかったのは、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品（-21.23 ポイント）、セメント（-7.67 ポイント）、水産品（-3.42 ポイント）である。水産品は 1994 年までは 2%を上回っていたが、その後は 1%にもとどかない状態がつづいている。

2. 主な輸出品目と経年的変化に関係した港湾

その他機械は構成比率がもっとも大きく、また 10 年間の上昇ポイントも多かった品目である。この品目の過去 10 年間の輸出貨物量を 100.0 とし、港湾別の構成比率を計算すると、長崎が 60.3%をも占める（表 6）。以下、金沢

表 6 主な輸出品目の港湾別構成比率（1989～98 年の累計）

港湾品目	その他機械	化学薬品	金属くず	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	セメント	輸送機械	紙・パルプ
石狩湾新	0.2		6.5	0.1		3.7	1.5
秋田	0.2	23.4	10.9	0.1		0.1	40.6
酒田	0.4	1.0	47.0	2.5		0.3	
新潟	15.9	29.9	20.8	30.5	0.0	51.3	5.1
直江津	1.2	5.1	3.6	0.1	0.0	0.6	0.4
伏木富山	1.3	40.0	9.2	36.4		22.2	1.1
金沢	17.1	0.2	0.2	1.0	0.3	4.3	0.3
敦賀	1.4	0.3	0.0	21.2	99.7	4.2	0.9
舞鶴	1.2	0.1	0.0	4.7		7.4	0.4
境	0.4	0.0	0.0	2.5		4.8	49.6
伊万里	0.4	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	
長崎	60.3		1.6	0.9		0.8	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(17.1%), 新潟(15.9%)の順である。長崎の比率はかなり大きいですが、1991年には新潟が29.0%、また1995年には金沢が22.2%をそれぞれ占めた。しかし全体としては長崎の比率が大きく、1998年には69.1%をも占めた。絶対量でも長崎の増加傾向は目を見張るものがある。金沢も絶対量で大きく増加したが、新潟は停滞傾向であった。こうしたことから、長崎、金沢がその他機械の輸出の伸びに大きく関わったといえる。

化学薬品は、輸出貨物量全体に占める比率がその他機械について大きい。加えて、10年間に比率が3.75ポイントも上昇している。このため、これは日本海側からの主な輸出品目であり、また近年における輸出貨物量の増大に大きく貢献した品目ともいえる。化学薬品の輸出を港湾別に見ると、伏木富山(累計で40.0%)、新潟(29.9%)、秋田(23.4%)の順で多く、1990年までは伏木富山が70%以上の比率を占めていた。1991年以降は伏木富山と新潟がほぼ同じ水準で推移するが、1996年に異変が起こった。この年にそれまで輸出実績のなかった秋田が43.0%を占めるようになったのである。秋田の比率は、その後さらに上昇している。秋田からの輸出貨物量に占める化学薬品の比率は1996年以降、50%を上回っており、それまでの輸出構造を大きく塗り替えたといえる。

金属くずもまた、過去10年間に輸出構成比率を高めてきた主要な品目である。金属くずは12港湾すべてから輸出された実績があるが、その中心は酒田と新潟であり、10年間の累計では酒田が47.0%、新潟が20.8%である。輸出絶対量は1994年以降、順調に増加している。1998年は石狩湾新が新潟を抜いて第2位の輸出港となった。染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品の輸出構成比率(平均値)は金属くずとほぼ同じである。ただしこの品目は10年間で比率を大幅に減らし、1989年の26.13%が1998年には4.90%にまで低下した。

長崎を除く 11 の港湾から輸出された実績があるが、その中心は伏木富山と新潟である。伏木富山の比率は累計で 36.4%であるが、1989 年以降、絶対額で減り続け、1994～97 年は新潟に逆転された。この品目の伏木富山における輸出比率は 1989 年は 44.7%と大きかったが、1994 年以降は 10%にも満たない状態が続いた。これがこの港湾における輸出不振の主な原因のひとつであったといつてよい。

輸出構成比率（平均値）が 6.83%の輸送機械は 1992～94 年には 10%前後の比率を記録した。12 港湾のすべてから輸出されているが、新潟が 51.3%（平均値）を占めており、伏木富山（22.2%）がこれにつぐ。これら 2 つの港湾は 1992～94 年当時は拮抗状態を呈していたが、1995 年以降は新潟が伏木富山を大きく上回るようになった。1993 年の伏木富山では輸送機械が輸出貨物量の 24.6%を占めていた。しかしこの比率は 1998 年には、わずか 4.6%にすぎなくなった。染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品と同様、輸送機械の輸出減が伏木富山の輸出不振の要因のひとつとなっている。

3. 輸入貨物の品目別構成比率の経年的変化

輸出と同様、輸入貨物についてその品目別構成比率の経年的変化について検討を行う。過去 10 年間、輸入貨物量全体に占める構成比率がつねに大きかったのは、石油製品と原木である（表 7）。10 年間の累計では石油製品が 26.20%、原木が 23.49%であった。1990 年までは原木が石油製品を上回っていたが、1994 年以降はその地位が逆転し、その後も変わっていない。構成比率が 3 番目に大きいのは石炭（13.00%）であり、第 4 位は原油（10.61%）である。これについても、1991 年までは原油が石炭を上回っていたが、1992 年以降は石炭の比率が原油のそれを上回るようになり、その後も変わらなかった。原木の比率が経年的に低下するのとは対照的に、その他木材の比率が高まってきた。10 年間の累計では 9.73%であるが、1995 年以降は 10%を上回り、1998 年には 12.95%にもなった。これは、付加価値の低い原木を加工して輸出しようという輸出国側の状況変化を反映している。

以上のように、石油製品、原木をはじめとする上位5品目で輸入貨物量全体の80%を超えている。12の港湾から輸入される品目の数は輸出のそれを上回っているが、主たる輸入品目は限られている。しかも過去10年間、大きな変化もなく推移した。このことは1989年と1998年を単純に比較して、構成比率

表7 輸入品目の構成比率(%)の推移

品目	年次	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1989～98年
羊毛	毛	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
輸送用容器	機器	0.00	0.04	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.05	0.02
機械	機械	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.02	0.04	0.07	0.02
野菜・果物	物品	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.01	0.02	0.02
木製	物品	0.13	0.22	0.29	0.38	0.60	0.43	0.52	1.57	1.59	1.17	0.71
綿花	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
米・雑穀・豆	物品	1.22	1.27	1.17	1.08	1.12	1.68	1.08	1.03	1.18	1.18	1.20
分類不能のもの	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00
非鉄金属	物品	0.32	0.45	0.59	0.48	0.62	0.72	0.93	0.79	0.96	0.88	0.68
小麦	物品	0.26	0.13	0.15	0.17	0.16	0.17	0.12	0.16	0.06	0.12	0.15
日用	物品	0.06	0.07	0.20	0.23	0.24	0.32	0.53	0.64	0.79	1.16	0.43
動植物性製造飼肥料	物品	0.11	0.13	0.17	0.16	0.19	0.19	0.19	0.34	0.25	0.27	0.20
陶磁	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00
鉄鋼	物品	0.10	0.32	0.52	0.36	0.37	0.58	0.58	0.56	0.93	0.54	0.49
鉄鉱石	物品	0.00	0.01	0.03	0.00	0.02	0.04	0.06	0.00	0.00	0.00	0.02
染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	物品	0.06	0.00	0.01	0.01	0.03	0.04	0.06	0.09	0.15	0.37	0.08
石油製品	物品	26.52	26.55	26.69	24.52	25.37	26.09	25.98	26.94	24.75	28.73	26.20
石炭	物品	9.06	10.20	10.60	15.55	14.59	15.50	13.73	13.68	13.40	12.93	13.00
石灰	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.11	0.08	0.07	0.00	0.01	0.03
水産	物品	0.06	0.05	0.16	0.10	0.08	0.19	0.35	0.12	0.14	0.18	0.14
薪炭	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.02	0.00
重油	物品	1.33	1.58	1.60	1.66	1.54	1.41	1.68	1.93	1.74	1.93	1.64
樹脂	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
油脂	物品	0.07	0.08	0.08	0.13	0.15	0.20	0.39	0.58	0.60	0.40	0.28
紙・パルプ	物品	0.09	0.21	0.18	0.21	0.20	0.05	0.34	0.20	0.33	0.38	0.22
糸及び紡績半製品	物品	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.05	0.08	0.11	0.14	0.15	0.07
砂利・砂・石材	物品	0.37	0.34	0.36	0.39	0.57	0.67	0.71	0.76	0.87	0.85	0.60
砂糖	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00
原油	物品	11.09	12.93	10.68	11.28	9.50	10.33	8.67	9.43	11.26	11.13	10.61
原木	物品	31.42	28.36	26.10	24.51	26.25	21.71	22.50	20.43	19.64	15.66	23.49
原塩	物品	0.41	0.36	0.45	0.39	0.50	0.57	0.70	0.54	0.49	0.55	0.50
金属製品	物品	0.02	0.03	0.05	0.03	0.03	0.04	0.14	0.21	0.62	0.16	0.14
金属くず	物品	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.09	0.01	0.02	0.03	0.02
玩具	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
化学薬品	物品	0.86	0.94	1.07	0.83	0.95	0.86	0.38	1.12	1.45	1.35	0.99
化学肥料	物品	0.92	0.80	0.67	0.71	0.82	0.68	0.81	0.49	0.65	0.67	0.72
リソ	物品	0.61	0.45	0.64	0.54	0.46	0.48	0.44	0.34	0.10	0.09	0.41
その他窯業品	物品	0.02	0.02	0.09	0.01	0.01	0.04	0.04	0.01	0.03	0.03	0.03
その他木材	物品	5.88	6.22	9.02	8.72	8.40	10.35	11.88	11.44	11.55	12.95	9.73
その他非金属物品	物品	3.02	3.47	3.52	3.28	3.32	3.09	3.42	3.01	3.12	2.53	3.17
その他農産品	物品	0.01	0.02	0.03	0.02	0.03	0.05	0.05	0.10	0.13	0.18	0.06
その他畜産品	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.07	0.05	0.07	0.02
その他繊維工業品	物品	0.00	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.04	0.03	0.04	0.05	0.02
その他石炭製品	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他製造工業品	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.02	0.03	0.02	0.02	0.06	0.02
その他食料工業品	物品	0.03	0.10	0.10	0.12	0.14	0.13	0.18	0.23	0.33	0.37	0.18
その他金属材料	物品	4.55	4.03	3.92	3.35	3.19	2.73	2.65	2.28	1.12	1.85	2.92
その他機械	物品	0.16	0.05	0.14	0.08	0.07	0.10	0.17	0.25	0.38	0.57	0.20
セメント	物品	0.55	0.45	0.38	0.17	0.14	0.14	0.11	0.09	0.09	0.08	0.21
ゴム製品	物品	0.00	0.01	0.02	0.03	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02
コークス	物品	0.63	0.02	0.17	0.39	0.11	0.13	0.17	0.12	0.84	0.14	0.28
くずも	物品	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ガラス	物品	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01	0.00	0.00	0.07	0.02	0.03	0.02
合計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

に大きな変化がなかったことからいえる。原木で-15.75 ポイント、その他木材で 7.06、それぞれ変化があったが、いずれも木材であるため、相殺すれば変化はさらに小さいといえる。石油製品、石炭はともに比率が上昇したが、増加幅は 2.21 ポイント、3.87 ポイントにとどまった。

4. 主な輸入品目と経年的変化に関係した港湾

主な輸入品目を中心に、輸入港と輸入状況の経年的変化について検討してみよう。最初に石油製品の場合、輸入実績があったのは新潟、伏木富山、直江津など 6 つの港湾であるが、新潟の比率が圧倒的に大きく累計で 96.2%を占める(表 8)。新潟の比率は 1991 年は 93.3%であったが、1997 年には 99.2%まで高まった。伏木富山との差は広がる方向にあり、新潟への集中度は高まっている。原木は長崎を除く 11 の港湾から輸入されている。港湾別比率は伏木富山(27.2%)、秋田(14.5%)、新潟(13.2%)、酒田(9.5%)の順序で大きい。輸入の絶対量は低下の傾向にあるが、港湾ごとの比率はほおおむね維持されながら推移した。

石炭を輸入している主な港湾は、酒田、伏木富山、直江津、新潟である。伊

表 8 主な輸入品目の港湾別構成比率(1989~98年の累計)

港湾	品目	石油製品	原木	石炭	原油	その他木材	その他非金属鉱物	その他金属鉱物
石	狩		0.2	0.1				0
秋	田	0.1	14.5	0.0	8.3		12.5	50.9
酒	田	0.0	9.5	49.9			1.8	0.1
新	潟	96.2	13.2	0.8	33.5	51.5	28.2	2.2
直	江	0.3	5.9	7.3		0.0	10.2	0.3
伏	木	3.4	27.2	41.2	58.2	48.4	16.2	42.6
金	沢		2.2			0.0	0.4	0
敦	賀		3.9			0.0	14	3.9
舞	鶴		9.7	0.0		0.1	10.5	0
	境		7.9				6.2	
伊	万		5.8	0.7			0.1	
長	崎	0.0					0	
合	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

万里，石狩湾新では 1990 年代後半から輸入されるようになった。10 年間の累計では酒田が 49.9%，伏木富山が 41.2%でほぼ拮抗している。ここでも 1991 年までは伏木富山が酒田を上回っていたが，1992 年以降は順序が逆転している。ちなみに，酒田での輸入全体に占める石炭の比率は 1989 年の 49.6%から 1998 年の 71.3%へと大幅に上昇した。このことから，酒田での輸入貨物量拡大の一因は石炭輸入であったといえる。石炭と同様，原油も特定の港湾への集中ぶりが著しい品目である。累計では伏木富山が 58.2%でもっとも大きく，新潟が 33.5%でこれについている。両港を合わせると 90%を超えており，第 3 位の秋田（8.3%）との開きは大きい。ただしここでも，伏木富山の比率が低下傾向にある一方で，新潟のそれは上昇に向かっている。その他木材は新潟と伏木富山からの輸入が大部分を占めており，その比率は 51.5%と 48.4%であった。両港の拮抗関係はほとんど変化することなく続いている。

以上が主な輸入品目の動向であった。過去 10 年間の輸入動向を通観すると，ある品目をコンスタントに輸入した港湾がある一方で，ごく最近になって輸入を始めた港湾もある。たとえば木製品は，新潟，金沢，伏木富山では毎年輸入されてきたが，秋田，直江津，伊万里は 1990 年代後半から輸入が始まった。非鉄金属，日用品の場合も，新潟，伏木富山では継続して輸入されてきたが，秋田，直江津では 1995 年以降，わずかながら輸入が行われるようになった。鉄鋼の場合は，新潟，伏木富山などの加えて石狩湾新，境でも輸入が始まったが，その時期は 1993 年前後である。水産品の輸入は石狩湾新で 1990 年，伏木富山と伊万里では 1993 年から始められた。

III 相手先別に見た輸出入貨物の経年的変化

1. 輸出貨物の相手先別構成比率の経年的変化

日本海沿岸の 12 の港湾から輸出される主な品目は、機械類、化学薬品、金属くずなどであった。これらの品目は主として世界のどの地域や国に向けて輸出されているのであろうか。また、1990 年代における輸出構造に変化はあったのか、もしあったとするならそれはどのようなものか、といった点を中心にここでは検討することにしよう。

1989 年から 1998 年までの 10 年間の輸出貨物量全体を 100.00 として、その相手先別構成比率を計算すると、韓国がもっとも大きく、比率は 34.87%である(表 9)。第 2 位はソ連・ロシア(統計上は、1992 年まではソ連、それ以降はロシア)で 19.41%、第 3 位は香港で 7.99%、第 4 位は中国で 6.31%、そして第 5 位が台湾で 5.85%ある。これら上位 5 カ国・地域で全体の 4 分の 3 を占める。いずれも日本海側から見れば距離的に近い位置にある国・地域であり、輸出と距離との間の密接な関係を想起させる。第 5 位以下を列記すると、フィリピン(4.26%)、シンガポール(3.15%)、メキシコ(2.45%)、タイ(2.21%)、北朝鮮(2.01%)、アメリカ(1.78%)、クウェート(1.73%)、イラン(1.15%)、インドネシア(1.11%)となっている。やはりアジアの国が多く、ヨーロッパやアフリカの国や地域は見あたらない。

輸出貨物量の構成比率が最大である韓国の場合、1990 年までは 10%台であったが、1991~93 年は 20%台に上昇し、1994~97 年は 40%以上にもなった。1995 年は 53.2%であり、実にこの年に行われた輸出の半分以上は韓国向けであった。このように、1990 年代における輸出動向の大きな特徴のひとつは、韓国向けのウェートが強まった点である。これと対照的な動きがソ連・ロシアの比重が小さくなった点である。すなわち、ソ連・ロシア(厳密にはソ連)の構成比率は 1990 年当時、47.9%にも達していた。ところが、1991 年 12 月にソ連の旧体制が崩壊したあとは一気に低下に向かい、1992~93 年は 20%台に半減、1995 年以降は 10%を下回るようになった。つまり、韓国とソ連・ロシアとの関係は裏腹の関係にあり、ソ連・ロシアで失われた輸出市場を韓国に求

めたかたちになっている。

香港，中国，台湾の各構成比率にも変化があった。1991年までは香港が他を大きくリードしていたが，その後台湾の比率が上昇し，1992～93年は香港と中国の合計が台湾とほぼ同じであった。その後は再び香港がリードするかたちになるが，それも続かず1998年に中国が大きく比率を伸ばした。1997年に

香港表9 輸出相手国の構成比率(%)の推移

国・地域 年次	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1989～ 98年
アイルランド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
アメリカ	4.8	3.4	2.0	2.2	0.1	0.1	0.3	1.8	0.8	2.5	1.78
アラブ首長国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.01
アルゼンチン	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.02
アンゴラ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.01
イギリス	0.0	0.5	1.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.2	0.32
イスラエル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
イタリア	0.0	0.0	0.0	0.5	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.15
イラン	0.9	2.2	4.0	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.15
インド	1.8	0.3	0.6	0.9	0.0	0.2	0.5	0.5	0.2	0.3	0.48
インドネシア	0.0	0.0	0.2	2.3	0.2	0.6	0.7	1.6	0.6	3.0	1.11
エジプト	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03
オーストラリア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.5	0.09
オマーン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
オランダ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.1	0.08
カナダ	0.0	0.0	1.5	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.19
韓国	15.6	12.8	21.3	26.2	25.7	41.4	53.2	49.2	48.4	38.1	34.87
カンボジア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.04
北朝鮮	0.9	0.7	1.2	3.2	5.2	1.6	5.6	1.6	1.0	0.8	2.01
ギリシア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.08
キリバス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
クウェート	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	3.4	3.7	2.1	1.73
コロンビア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.01
サイパル	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.05
サウジアラビア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
サウジアラビア	0.6	6.2	0.7	0.1	0.0	2.7	0.9	0.0	0.0	0.1	0.97
諸国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
シンガポール	7.2	0.8	4.4	1.9	1.2	0.5	3.0	5.6	3.9	2.7	3.15
スーダン	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.11
スベイン	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.10
スリランカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.02
ソ連・ロシア	46.2	47.9	35.3	21.9	25.7	14.1	5.0	6.2	9.5	7.0	19.41
台湾	0.8	2.4	3.2	0.9	1.3	1.1	1.8	1.7	1.7	4.7	2.21
タンザニア	1.4	0.6	2.3	10.9	14.3	7.6	8.3	4.4	4.9	5.4	5.85
タイ	0.0	1.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.17
チリ	2.8	1.7	2.7	1.8	2.4	4.5	5.3	5.8	9.1	15.9	6.31
チリ	0.3	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.11
ドミニカ共和国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.02
トルコ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.05
ナイジェリア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
ニュージーランド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
パキスタン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	1.3	0.0	0.0	0.20
パナマ	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.10
パングラデシュ	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03
フィリピン	2.5	5.5	5.0	1.1	4.2	7.4	3.3	3.3	8.2	2.2	4.26
フィンランド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.2	0.0	0.0	0.09
フランス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.3	0.10
フランス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.02
ベトナム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.2	0.7	0.20
ベルギー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.1	0.09
ポルトガル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.03
香港	7.9	10.8	8.3	9.1	8.1	15.5	8.0	9.0	4.6	3.8	7.99
ホンジュラス	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.06
マカオ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.06
レーシオ	5.3	0.4	0.8	0.7	0.6	0.4	2.5	3.2	1.3	1.3	1.62
南アフリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.01
ミャンマー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
メキシコ	0.0	0.8	2.9	8.3	2.2	0.0	0.0	0.0	0.1	7.3	2.45
モリタニア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
ヨルダン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.00

は中国へ返還されたが、統計区分は変わっていない。いずれにしても、1996年以降の中国の急伸と台湾の停滞傾向が指摘できる。フィリピン、シンガポールは環日本海諸国について輸出相手国として重要な地位にある。しかしそのウエートは定まっておらず、変化が激しい。フィリピンの場合、1992年は1.1%にすぎなかったが、1997年には8.2%にもなった。シンガポールは1989年の7.2%が最大であり、最小はその翌年の0.8%が最小である。

過去10年間の輸出貨物量構成比率が2%台であったメキシコ、タイ、北朝鮮のうちメキシコは、1998年の比率が7.3%が大きかったため、結果的に上位に入った。タイ、北朝鮮はあまり大きく変化しなかった。これらの国につづくアメリカ、クウェート、イラン、インドネシアのうち、アメリカ、イラン両国は1990年代初頭までは2%を超える比率を維持していたが、その後は低下傾向にある。逆に、クウェートとインドネシアは1990年代後半になって比率を高めてきた。

2. 主な輸出相手先と経年的変化に関係した港湾

輸出の主な相手先が比較的距離の近い韓国、ソ連・ロシア、中国などであることは明らかになったが、これらの国・地域に向けてどの港湾から輸出が行われたのであろうか。輸出貨物量構成比率が最大の韓国の場合、輸出港はかなりばらついている。10年間の累計で構成比率が最大であったのは新潟(22.4%)であるが、第2位の敦賀(19.6%)との差は大きくない(表10)。以下、伏木富山(13.8%)、酒田(12.2%)、金沢(11.0%)とつづく。新潟から韓国への主な輸出品目は、金属くず、化学薬品、砂利・砂・石材等、その他機械などである。敦賀からの輸出はセメント、ガラス類が太宗を占める。伏木富山の場合

は、取合せ品、化学薬品、その他の繊維工業品が主な輸出品である。酒田からは金属くずが多く輸出されており、ほかに染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品も主な輸出品である。さらに金沢のからは、その他機械、その他非鉄金属鉱、その他繊維工業品が韓国に向けて輸出されてきた。

表 10 主な輸出相手国の港湾別構成比率（1989～98年の累計）

港湾	国・地域	韓国	ソ連・ロシア	香港	中国	台湾	シンガポール	メキシコ
石狩湾	新潟	1.8	1.4	0.0	2.4			1.3
秋田	田	7.4	0.0	0.9	18.0	13.7	2.6	
酒田	田	12.2	0.0		0.5	2.2		
新潟	新潟	22.4	42.8	25.7	21.1	20.1	16.5	
直江津	江津	2.7	0.2		4.5	0.0		
伏木富山	伏木富山	13.8	39.9	20.3	15.7	7.3	44.4	
金沢	金沢	11.0	1.9		1.0	8.6	2.4	5.5
敦賀	敦賀	19.6	7.9	9.6	2.1	38.3	11.4	
舞鶴	舞鶴	2.8	3.8		0.6	1.7	0.2	
境	境	0.8	1.9	27.9	1.6	1.9	16.4	
伊万里	伊万里	0.7	0.0	1.8	1.5	0.0	0.2	
長崎	長崎	4.8	0.3	13.7	30.9	6.1	5.8	93.2
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

過去 10 年間の輸出貨物量構成比率が韓国について大きかったソ連・ロシアの場合、新潟と伏木富山が輸出を二分してきた。比率は 42.8%と 39.9%である。これらにつづくのが敦賀（7.9%）、舞鶴（3.8%）である。対ソ連・ロシア輸出が縮小する中で、新潟と伏木富山は 1994 年まではほぼ拮抗する関係にあったが、1996 年以降は新潟が伏木富山を大きく上回るようになった。他の港湾からの輸出は非常に少なくなった。新潟からソ連・ロシアに向けて輸出された主な品目は輸送機械、その他機械、石油製品などである。また伏木富山が

らの主な輸出品は、ソ連崩壊前後は染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、化学薬品、それ以後は輸送機械、取合せ品であった。

1998年にロシアに代わって輸出先第2位の地位に躍り出た中国へは、長崎（構成比率は30.9%）、新潟（21.1%）、秋田（18.0%）、伏木富山（15.7%）などからの輸出が多い。経年的に見ると、秋田はほぼコンスタントに輸出を行ってきたのに対し、長崎は1995年頃から急激に比率を伸ばしてきた。しかし1998年には新潟に抜かれ、対中国輸出第1位の地位を明け渡した。ここでも、近年における新潟の伸びの大きさが指摘できる。長崎では1995年までは重油が主な輸出品であったが、1996年以降は様子が変わり金属製品や鉄鋼が主な輸出品となった。新潟で対中国向け輸出が本格化したのは1994年からであり、鉄鋼、化学薬品、金属くずなどが主に輸出されるようになった。秋田から継続して輸出されてきたのは、原油、その他の金属鉱物、その他の非金属鉱物などである。伏木富山からは、金属くず、化学薬品などが主に輸出されてきた。

香港向けの輸出を実質的に行ってきたのは、境（構成比率は27.9%）、新潟（25.7%）、伏木富山（20.3%）、長崎（13.7%）である。ただし、伏木富山、長崎とも1997年以降は輸出実績がない。境の比率が大きいことが特徴的であり、過去10年間ほぼ同じ輸出貨物量を記録してきた。新潟は1995年以降に比率を大きく伸ばすようになり、1996年からは境を上回る輸出を行った。境から香港に向けて輸出された品目の中でもっとも多いのは紙・パルプであり、全体の97.2%を占めた。新潟からはゴム製品、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、化学薬品が主として輸出された。伏木富山からは化学薬品、ゴム製品が、また長崎からはその他機械が輸出された。

台湾向け輸出の中心は敦賀と新潟であるが、1996年以降、敦賀からの輸出はない。1991年から1995年にかけて敦賀から輸出されたのはセメントである。新潟からの輸出は化学薬品、その他非金属鉱物、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、その他機械などであり、いずれもコンスタントに輸出が行われてきた。シンガポールへの輸出では伏木富山の1996年以降の増加と、境からの継続的な輸出が特徴的である。前者は化学薬品、取合せ品がこの時期から輸

出されるようになったからであり、また後者は香港の場合と同様、紙・パルプが境から輸出されてきたことによる。さらに対フィリピン輸出については、新潟からの継続的な輸出と、1994年以降の長崎、それに1997年以降の秋田からの輸出増が特徴的である。新潟からは毎年のように化学肥料が輸出されてきた。長崎からの輸出は金属製品、鉄鋼であり、秋田からのそれは化学薬品である。

3. 輸入貨物の相手先別構成比率の経年的変化

前節で明らかにしたように、1990年代における輸入は輸出に比べると非常に安定的であった。品目間の異動も少なく、輸入貨物量から見た港湾の序列にも大きな変化は見られなかった。こうしたことから、輸入動向を相手先別に見た場合においても大きな変化はないように思われる。ここでは、輸入の主な相手先ごとにその動向を検討する。

輸出の場合と同様、1989年から1998年までの10年間の輸入貨物量全体を100.00として、相手先別構成比率を計算する。第1位はインドネシアであり、比率は26.54%である(表11)。比率を年度ごとに求めてもほとんど一定しており、輸入貨物量の4分の1近くはインドネシアからであった。第2位はソ連・ロシアであり、10年間の累計では14.13%を占めた。ソ連当時の1989年は17.19%もあったが、徐々に低下に向かい、1998年は10.04%まで低下した。他の輸入相手先には見られない特徴である。第3位のオーストラリアは、1989年の10.35%から徐々に比率を増していき、1994年には15.53%まで高まった。しかしその後は低下に向かい、1998年は12.64%であった。

輸入貨物量の構成比率が大きかったインドネシアやオーストラリアは、主な輸出相手先ではなかった。同様に、アメリカも輸出先としては重要な位置を占めていないが、輸入先としては10%を超えるウェートを持っている。10年間の累計では11.73%の比率であり、経年的変化もほとんどなかった。マレーシアも主な輸出先ではないが、輸入先ではアメリカにつぐ位置にあり、6%前後の比率で推移した。アメリカやマレーシアとは異なり、中国は輸出同様、輸入の面でも主な相手先である。累計では5.18%の比率であり、これも10年間あまり変化することなく推移した。

以上が主な輸入先 6 カ国であった。これらにつづく国としては、韓国 (3.45%)、サウジアラビア (2.64%)、南アフリカ (2.58%)、カナダ (1.60%)、アラブ首長国 (1.57)、タイ (1.36%) などがある。このうち韓国とサウジアラビアは、1990 年代後半に入って比率が高まりを見せるようになり、1989 年のそれは 4.73% と 4.56% である。輸入で 3% 以上の比率があった香港、台湾、フィリ

表 11 輸入相手国の構成比率 (%) の推移

国・地域	年次	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1989-98年
アジア	インドネシア	0.16	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02
アジア	タイ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	フィリピン	11.59	11.05	11.85	11.65	11.02	11.82	12.14	12.53	11.67	11.86	11.73
アジア	マレーシア	1.12	1.02	1.73	1.84	1.22	1.38	0.94	0.65	2.58	3.09	1.57
アジア	ジャバ	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
アジア	シンガポール	0.00	0.00	0.00	0.06	0.11	0.04	0.07	0.01	0.02	0.01	0.03
アジア	バングラデシュ	0.00	0.06	0.10	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
アジア	インド	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00
アジア	スリランカ	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	ミャンマー	0.04	0.00	0.00	0.00	0.21	0.05	0.10	0.00	0.00	0.00	0.04
アジア	ネパール	0.00	0.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
アジア	ブータン	0.15	0.39	0.00	0.00	0.04	0.06	0.38	0.48	0.08	0.76	0.23
アジア	モンゴル	0.22	0.12	0.12	0.08	0.10	0.10	0.28	0.30	0.22	0.16	0.17
アジア	中国	28.55	28.31	28.78	28.32	27.22	27.93	27.52	27.08	24.43	25.54	26.54
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00
アジア	台湾	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.01
アジア	香港	10.35	11.32	12.22	14.41	14.34	15.53	13.61	12.61	13.00	12.64	13.04
アジア	オーストラリア	1.29	0.97	1.23	1.75	0.42	0.71	1.16	0.78	0.87	0.31	0.94
アジア	ニュージーランド	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.02	0.03	0.00	0.04	0.02	0.02
アジア	インドネシア	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.03	0.00	0.02	0.00	0.01
アジア	ジャバ	0.09	0.50	0.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.09
アジア	シンガポール	1.49	2.27	1.97	1.71	1.43	1.73	1.42	1.69	1.37	1.00	1.60
アジア	マレーシア	0.09	0.05	0.05	0.04	0.30	0.41	0.23	0.33	0.28	0.12	0.20
アジア	バングラデシュ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.08	0.03	0.06	0.12	0.05	0.04
アジア	インド	2.21	2.04	2.58	2.78	4.40	3.68	3.13	4.36	4.17	4.73	3.45
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	台湾	0.51	0.24	0.44	0.67	0.46	0.48	0.60	0.32	0.48	0.39	0.46
アジア	香港	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.01
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
アジア	台湾	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.09	0.00	0.00	0.00	0.02
アジア	香港	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.02	0.00	0.00	0.00	0.01
アジア	北朝鮮	1.76	1.35	0.88	1.67	1.31	2.41	3.37	4.46	4.09	4.56	2.64
アジア	台湾	0.26	0.42	0.35	0.42	0.39	0.31	0.56	0.33	0.33	0.39	0.38
アジア	香港	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.01
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.48	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05
アジア	北朝鮮	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	台湾	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	香港	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.02	0.08	0.03	0.02
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00
アジア	北朝鮮	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
アジア	台湾	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	香港	17.79	15.88	15.17	13.55	16.98	13.38	13.69	12.14	13.43	10.04	14.13
アジア	韓国	0.05	0.00	0.00	0.03	0.13	0.18	0.25	0.38	0.29	0.17	0.15
アジア	北朝鮮	4.30	4.49	6.2	1.50	1.62	1.33	1.22	1.20	1.39	1.00	1.36
アジア	台湾	0.04	0.26	0.90	0.16	0.83	0.90	0.41	0.86	1.44	1.06	0.70
アジア	香港	5.35	7.57	5.26	4.93	3.20	5.17	4.89	4.81	5.23	5.57	5.18
アジア	韓国	0.56	0.67	1.06	0.81	0.56	0.42	0.74	0.26	0.39	0.83	0.63
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	台湾	0.00	0.00	0.22	0.53	0.36	0.28	0.14	0.09	0.12	0.11	0.19
アジア	香港	0.14	0.03	0.00	0.00	0.00	0.02	0.04	0.14	0.07	0.08	0.05
アジア	韓国	0.72	1.16	1.12	1.11	1.02	1.18	1.14	1.86	1.15	1.12	1.17
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.02	0.04	0.01	0.06	0.01	0.00	0.04	0.02
アジア	台湾	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	香港	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.05	0.61	0.95
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	北朝鮮	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	台湾	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.11	0.02
アジア	香港	0.02	0.06	0.16	0.06	0.09	0.14	0.04	0.01	0.12	0.25	0.10
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.06	0.42	0.14	0.15	0.04	0.09
アジア	北朝鮮	0.27	0.01	0.38	0.35	0.18	0.24	0.29	0.37	0.36	0.36	0.29
アジア	台湾	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	香港	1.43	1.32	0.67	0.40	1.03	0.72	0.43	0.97	0.92	0.82	0.86
アジア	韓国	0.04	0.03	0.13	1.26	1.06	0.54	0.38	0.11	0.09	0.09	0.37
アジア	北朝鮮	0.11	0.10	0.14	0.16	0.11	0.05	0.12	0.08	0.10	0.23	0.12
アジア	台湾	0.35	0.59	0.36	0.45	0.46	0.34	0.25	0.30	0.20	0.17	0.34
アジア	香港	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.01	0.00	0.01
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	台湾	0.08	0.09	0.20	0.16	0.17	0.21	0.08	0.19	0.21	0.19	0.16
アジア	香港	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	韓国	0.18	0.10	0.18	0.05	0.05	0.00	0.00	0.04	0.00	0.08	0.07
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アジア	台湾	9.75	8.94	7.74	7.71	5.05	3.77	3.96	4.82	5.75	6.49	6.33
アジア	香港	2.35	2.22	2.77	2.35	2.09	2.06	3.39	3.02	2.80	2.63	2.58
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.02	0.03	0.02	0.00	0.01	0.00	0.02	0.01
アジア	北朝鮮	0.15	0.16	0.14	0.13	0.02	0.44	0.69	0.46	0.62	0.55	0.34
アジア	台湾	0.74	0.38	0.40	0.00	0.00	0.06	0.13	0.08	0.01	1.56	0.33
アジア	香港	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.12	0.02
アジア	韓国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00
アジア	北朝鮮	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00
アジア	台湾	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
アジア	香港	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
合計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

ピン、シンガポールなどは、輸入ではいずれも 1%にも満たない。総じて、東アジア地域とのつながりは輸入面ではあまりみとめられない。

4. 主な輸入相手先と経年的変化に関係した港湾

輸入貨物量がもっとも多いインドネシアからは、ほとんどすべての港湾が輸入している。しかしそのうちの実に 89.7%は新潟が占めており、敦賀(3.7%)や伊万里(2.1%)との差は歴然としている(表 12)。しかも、新潟で輸入され

表 12 主な輸入相手国の港湾別構成比率(1989~98年の累計)

港湾	国・地域	インドネシア	ソ連・ロシア	オーストラリア	アメリカ	マレーシア	中国	韓国
石狩湾	新	0.7	0.8		0.3	0.1	0.1	0.7
秋田	田	1.3	1.8	13.3	10.5	32.9	10.7	2.7
酒田	田	1.4	13.1	22.4	6.2	0.1	3.7	1.9
新潟	潟	89.7	11.3	11.9	32.8	29.5	19.2	36.8
直江津	津	0.5	3.8	5.8	8.4	0.4	4.0	1.7
伏木富山	山		44.0	22.4	23.4	6.4	38.4	10.8
金沢	沢	0.1	2.0		1.8	0.2	1.1	8.3
敦賀	賀	3.7	9.6	20.1	2.4	1.0	11.0	4.1
舞鶴	鶴	0.0	10.6	2.4	4.1	3.0	1.5	2.7
境		0.3	2.7	1.6	7.3	20.3	6.2	7.4
伊万里	里	2.1	0.1	0.1	2.7	6.2	0.6	0.8
長崎	崎	0.0	0.3	0.0	0.1		3.4	22.1
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ている量の 98.1%は石油製品で占められており、これに重油や原油を加えるとほとんど 100%近くになる。敦賀や伊万里など他の輸入港においても事情はほぼ似通っている。輸入貨物量が 2 番目に多いソ連・ロシアの場合は、伏木富山(44.0%)が抜きんでており、酒田(13.1%)、新潟(11.3%)、舞鶴(10.6%)、敦賀(9.6%)がほぼ並んで続いている。ソ連崩壊にともない、その後のロシアからの輸入貨物量は低下の傾向にある。しかし、港湾ごとの比率は大きく変化することなく維持された。伏木富山ではソ連、ロシア時代を通じて原木、その他木材が輸入の大半を占めている。酒田、新潟などほかの港湾でも原木が輸入の多くを占めており、金属、非金属鉱物がこれについている。

オーストラリアからの輸入が多いのは、酒田(22.4%)、伏木富山(22.4%)、敦賀(20.1%)の 3 港湾であり、秋田(13.3%)、新潟(11.9%)がこれについている。オーストラリアからの輸入貨物量は 1994 年以降、停滞気味であるが、上位 3 港の比率はほとんど変化していない。これら 3 港の輸入品目とその割合には若干の違いがあり、酒田では 99.9%が石炭、敦賀でも 86.4%が石炭であるのに対し、伏木富山では石炭は 56.3%にとどまる。富山伏木ではその他木材が 28.9%を占めており、他の 2 港とはやや異なる。秋田ではその他木材が 60.2%、その他金属鉱物が 37.2%を占めている。新潟もこれとやや似ており、その他木材が 75.7%でもっとも多く、原塩、その他非金属鉱物、石油製品がこれについている。

アメリカからの輸入が多いのは新潟(32.8%)、伏木富山(23.4%)、それに秋田(10.5%)である。新潟はアメリカからその他木材(45.4%)、米・雑穀・豆(24.5%)、原木(16.3%)を中心に輸入している。伏木富山の輸入品目はその他木材(55.1%)と石油製品(27.3%)を主として輸入してきた。その他木材は秋田でもアメリカからの最大の輸入品目であり、50.6%を占めた。原木(21.2%)を加えると、木材関係だけで 70%を上回る。アメリカについて輸入貨物量が多いマレーシアの場合、秋田(32.9%)、新潟(29.5%)、境(20.3%)の 3 港湾が他より多く輸入している。秋田の輸入品目の 94.1%は原木であり、

境でも 96.2%は原木である。原木は新潟でも 36.0%を占める。しかし新潟では石油製品が最大の輸入品目（41.6%）であり、原油（19.4%）と合わせると 60%を上回る。

中国からの輸入は、伏木富山（38.4%）、新潟（19.2%）、敦賀（11.0%）、秋田（10.7%）で主に行われてきた。とくに伏木富山は 1989～90 年に 50%を超えるシェアをもっていた。1990 年代後半になると新潟のシェアが増していき、両者の差が縮まった。伏木富山から輸入されている品目のうち 80%近くは原油である。その他の木材が 7.7%、コークスが 3.0%というのが過去 10 年間の輸入実績である。伏木富山とは異なり、新潟の輸入品目は多岐に渡っている。最大は原油であるがその比率は 12.1%にすぎない。以下、その他非金属鉱物（10.6%）、石油製品（9.4%）、動植物性製造飼肥料（5.9%）、その他食料工業品（3.6%）などとなっている。輸入品目が多くなったのは 1995 年以降である。敦賀では石炭が全体の 81.0%を占めており、また秋田では原油が 67.9%を占めている。いずれにしても、中国からは原油、石炭といった燃料資源の輸入が多い。

10 年間で輸入貨物量が倍増した韓国からの輸入は新潟（36.8%）、長崎（22.1%）、伏木富山（10.8%）で主として行われてきた。金沢（8.3%）、境（7.4%）がこれらにつぐ輸入港湾である。新潟は 1994 年から 1995 年にかけて 50%を超えるシェアを持っていたが、1996 年以降は長崎をはじめとする他港の追い上げにあいシェアを落とした。新潟からの輸入品目は中国の場合と同様に多数に上るが、石油製品（28.5%）、原油（27.1%）が上位を占める。鉄鋼（6.3%）、日用品（7.8%）もコンスタントに輸入されてきた。長崎の輸入品の 85.4%は重油であり、伏木富山の場合は石油製品（30.5%）、取合せ品（23.3%）が上位を占める。このほかに砂利・砂・石材等（8.1%）、その他非金属鉱物（6.9%）も輸入されてきた。金沢では石油製品（17.3%）、重油（14.9%）をはじめ多くの品目が輸入された。境の輸入品目は多いが、中心をなしたのは重油（58.2%）とセメント（31.5%）である。

まとめ

本研究では、1989年から1998年の10年間を対象期間として、わが国の日本海沿岸にある12の港湾における輸出入貨物の推移を検討した。検討の結果明らかになった諸点を整理すると、以下のようになる。

1990年代における12港湾全体の輸出入貨物量の推移は日本経済の成長、後退という動きをおおむね反映しており、とくに輸出動向でその傾向が明確であった。

輸出貨物量の港湾ごとの順位にはかなりの変動があった。新潟、長崎、秋田のシェアが高まる一方、伏木富山、敦賀でシェアの落ち込みが大きかった。

輸入貨物量の港湾別順位に大きな変化はなく、輸入構造は安定的であった。

新潟は10年間トップの位置にあり、シェアをさらに高めた。第2位の伏木富山はシェアを落とした。

輸出貨物の品目別構成比率を経年的に見ると、機械類、化学薬品、金属くずなどの比率が大きく、高まる傾向にある。対照的に、染料・塗料・合成樹脂・その他工業化学品、水産物は低下してきた。

輸出貨物量が大きく増えたその他機械には長崎、金沢が関わっており、化学薬品は最近輸出が始まった秋田の寄与度が大きい。金属くずは酒田、新潟からの輸出が多い。

輸入貨物の中心は原木と石油製品であり、1995年以降は石油製品が第1位の地位を維持している。1992年以降、石炭は原油を抜いて第3位となり、その後も変わっていない。

石油製品の大半は新潟からの輸入であり、原木は伏木富山、秋田、酒田の順でシェアを維持しながら輸入されてきた。石炭は酒田、伏木富山、原油は伏木富山、新潟の輸入貨物量が多い。

輸出相手先の第1位は、体制崩壊したソ連に代わり1992年からは韓国になった。香港、台湾の停滞とは対照的に、中国が輸出先として急伸してきた。

韓国へは新潟、敦賀などからの輸出が多い。

輸入相手先の第 1 はインドネシアであり、大半は新潟から輸入される石油製品である。輸入先第 2 位のソ連・ロシアからは伏木富山、酒田、新潟を中心に原木、その他木材が主に輸入された。

輸出入ともに、1990 年代中頃から相手先が増える傾向が認められる。輸出では秋田、長崎、輸入では新潟の伸張ぶりが目に付く。

以上が本研究を通して明らかになった主な点である。日本海沿岸に位置する地方港湾については、その地理的特性もありいわゆる環日本海諸国との貿易が強調される傾向がある。たしかに輸出面では韓国、中国をはじめとするこの地域の経済発展にともない、つながりは増してきている。しかし、ロシアや北朝鮮との交流は足踏み状態か、もしくは後退の傾向さえある。一方、輸入に関しては、日本海の対岸諸国より、むしろそれ以外の国や地域との関係が強い。輸出入ともに近年は貿易相手先が増える動きがあり、これは好ましい傾向といえよう。新潟、伏木富山を中心とする輸入構造が安定的であるのに対し、輸出をめぐる港湾間の競争は激しくなっている。輸入同様、新潟にやや集中する傾向があるが、長崎、秋田などの動きにも目を離すことができない。